

令和3年生駒市教育委員会第5回定例会会議録

1 日 時 令和3年5月24日(月) 午前9時30分～午前10時39分

2 場 所 生駒市役所 401・402 会議室

3 審査事項

- (1) 報告第8号 令和3年度園児・児童・生徒数について
- (2) 報告第20号 令和3年生駒市議会第3回(6月)定例会提出議案の意見について
- (3) 議案第21号 生駒市文化財保護審議会委員の委嘱について
- (4) 議案第22号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
- (5) 議案第23号 生駒市学校歯科医の委嘱について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	学校給食センター所長	財 満 直 也
こども課長	松 田 悟	こども課指導主事	川 田 奈津子
こども課指導主事	松 本 裕 美	子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
図書館課長	錦 好 見	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	石 田 昌 代	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育指導課課長補佐	日 高 興 人	こども課課長補佐	福 山 清 美
生涯学習課長補佐	井 川 啓一郎	教育総務課(書記)	牧 井 望
教育総務課(書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 5名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

- ・生駒市立幼稚園及び小・中学校のあり方に関する基本的な考え方に係る地域協議会の経過について奥田教育こども部長から説明
(質疑)

伊藤委員：生駒南第二小学校は存続するという事で固まったと理解してよろしいか。

奥田部長：協議で再編と話を進めていたが、存続という形での意見書を提出していただくことで進んでいる。

伊藤委員：意見書を頂くということ以上には何も決まっていないのか、意見書を頂いた時点で教育委員会も存続の方向で進めていくのか、どちらか。

奥田部長：現在、意見書を提出していただくのが地域協議会の役割である。まず教育委員会宛に意見書を提出していただく内容が存続となっている。

飯島委員：意見書を頂いてからどのくらいの期間で、議論して教育委員会としての意見を出す必要があるのか。

奥田部長：現在、第5回までの地域協議会を予定している。しかし内容が早くまとまれば第4回で終了かもしれない。その後意見書を教育委員会に提出いただき、それを基に教育委員会と市長との協議を進めていくものと考えている。そのため、期間は前後するが、早ければ9月末に意見書が提出されると予想している。その後、教育委員会で内容を精査していただき、市長を含めてこの意見書を基にどうしていくかを今年度中には進められればと考えている。

- ・いじめ防止月間における学校等での取組について前田教育指導課長から説明
(質疑) なし

- ・生駒市史編さん事業の基本方針等について錦図書館課課長から説明
(質疑)

飯島委員：今回の市史編さんは市民参加を重視した基本方針をお考えとのこと、大変ありがたい。特に生駒市史が50年間どうであったかということ踏まえて、どう行動すべきかの指針が得られるようなものとなるべきと考えている。編さんされた市史を読んだ子どもたちが生駒市について学び考える機会になると良い。そのような機会を新しく50周年記念として作ることは貴重だと思うので、この基本方針を踏まえて是非進めてほしい。その際に今回読みやすいものということだったが、一般的に市史編さんは難解

な内容のものが多く、子どもたちが直接読んで理解するには難しいものが多いと思う。そのため、できれば中学生が自分で読んで自分で探して理解出来るようなものという方向を目指していただければ、直接子どもたちが自分の資料として扱えるものになると思うので検討をお願いしたい。また以前の市史から30年経ち、情報端末が入るなど、現在とかなり価値観が変わっている。古代史のような内容が固定されているものでも解釈に変化があると思う。現代の価値観を反映した形で作成していただくと有効な市史になると思うので、検討をお願いしたい。それからもう1点、今電子媒体で閲覧できる書籍が多く、新刊の文庫や新書では必ず電子書籍と紙と両方出ている。特に市史というのは分厚く高価なものであり一般的に個人宅に置けない場合が多いと思うので、少しでも多くの市民に手に取っていただけるように、概要的なものをPDFにするとかDVDに画像や音声を収録するなどして、できるだけ広く配布するというのも合わせて検討していただきたい。

錦 課 長：検討させていただく。

レイルズ 委員：市史はなかなか手に取りにくい。しかしせっかく作ったものなので学校現場でも端末を使って積極的に見ることでできる機会がある方が良く思う。例えば飯島委員は中学生以上でとおっしゃっていたが、せっかくなら小学生でも分かりやすいような簡単な内容の市史をダイジェスト版のような形で作ると良いと思う。さらに、デジタル化というのは市民の方がどのように情報を得るかと考えたときにも必須になると思うので電子版のみならず、スマホのアプリなども考えていただくと良いと思う。もし編さん委員内でデジタル化が難しければ、ICTのスキルを持った市民の方のサポートを受けるなどして積極的にデジタル化を図って欲しい。

伊 藤 委 員：例えば市民が自分たちの地域の環境について理解を深めるために、防災という視点から地域を眺めるときに大事なコンセプトとしてセンス・オブ・プレイスという言葉をよく使う。自分の住んでいるまちが元々どのような自然環境にあったのかを知ることで、例えばここは土砂災害になりやすい土地であるとか、水が溜まりやすいなどのセンス・オブ・プレイスを持つことができる。そしてそれが環境問題を考える第一歩になる。しかし市史というのは歴史なので時間軸に沿って作成される傾向が強いと思う。そこで、私たちが住んでいる地域の今の状況から過去に遡っていくようなものが見方ができる構成を一部取り入れるのはどうだろうか。例えば市史でよく使われる方法として、同じ場所の今と昔の写真を並べて変化を見ることがよくある。この手法を多用することで、各住宅街などのかつての自然風景や住民の暮らしの在り方が見える。そうすることで、今生きている私たちが自分たちの地域の来歴に興味を持てると思う。センス・オブ・

プレイスを持ってもらえるための市史を作っていただければと思う。子どもたちも関心を持ちやすいのではないかと考える。

坪井委員：やはり幅広い世代で市民が生駒に興味を持っていただくことが大事だと思うので、将来を担う子どもたちのために分かりやすいものを作っていただきたいという思いは皆さんと同じである。その中で学校教育として小学校、中学校にどのように教科に組み込まれていくのか、また、暫定発行年度が令和7年、8年、9年とのことで50周年である今年度には間に合わないが、子どもたちに郷土愛を持ってもらうための仕掛けは何かお考えなのか。

錦課課長：編さん委員会はまだ1回目だが、学校で活用できるようなDVDなどの媒体の作成を検討している。今後、おっしゃっていただいたデジタル化や生活環境を見直すことのできるソフトなども編さん委員会に伝えて、先生方や皆さんと協議していこうと考えている。また今後教育委員会で報告することになると思う。

坪井委員：優秀な子ほど生駒に残らないという傾向が多くみられるので、ぜひ50周年を機会に伊藤委員のおっしゃったようなセンス・オブ・プレイスという形で子どもたちに郷土愛を根づかせるようなものになるようお願いしたい。

○日程第3 報告第8号 令和3年度園児・児童・生徒数について

・令和3年度市内保育所・こども園・幼稚園の園児数について松田こども課長から説明

<参照：議案書p2・p3>

・令和3年度市内小学校・中学校の児童・生徒数について山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p4>

(質疑)

飯島委員：特に小学校は減少傾向にあるとのことであるが学年ごとの人数集計を見ると、必ずしも単調に減少しておらず、緩やかに増えたり減ったりしながら長期的に減少していく傾向だと思う。これについて、例えば5年先だと保育園、幼稚園の園児の数などから推定できるが、10年先の人数は市役所で推測できるのか。

山本課長：生まれているお子さんの数からある程度先まで予測できるが、それ以降については国の社人研の推計に基づき減少率を計算して推計を出している。

飯島委員：その推定によると、今後このように推移していくと考えて良いか。

山本課長：その通りです。現在の推定ではこれから徐々に減少していき令和22年には小中合わせて7375人となる。

飯島委員：想像より減り幅が大きいと感じた。

イルズ委員：山本課長がおっしゃった校区の件だが、中学校の校区が小学校の選択に影響すると思う。今のところ中学校の大きな増減はないが小学校では変わっ

ていくようなので、今後小中両方の校区の見直しが必要ではないかと数年前から話し合っており、今回の規模適正化において、対象となっている学校については協議を進めている段階ではあるが、一旦その道筋が見えてから全体の校区について考えるのか、同時進行なのか、進め方について教えてほしい。

奥田部長：今現在人口減少に伴い、校区の見直しの必要が生じている。順番としては校区の見直しを行っても良い時期ではある。しかし、再編に向けてとなると1つの町名から2つの学校に分かれるなど、行政用語で言うねじれが発生してしまう。これには地域住民の方の意見を十分に聞いておかなければならないと思う。また、市内全体の校区の見直しも必要だと同時に思っているが、まずは再編に向けての個別の協議が進んでいく中で、その校区をどうしていくかを決める必要があると考えている。その後全体の見直しをすることが課題となってくると考えている。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第20号 令和3年生駒市議第3回（6月）定例会提出議案の意見について

- ・令和3年度生駒市一般会計補正予算（第4回）について山本教育総務課長から説明
<参照：議案書p5～8、資料2、追加資料1、2>
- ・生駒市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について松田こども課長から説明
<参照：議案書p9～11、資料3>

（質疑）

伊藤委員：最初にあったひとり親世帯以外へのコロナに関連する補助の件で、すでにはっきり分かっている世帯以外に新たに所得急変の世帯が704世帯と予定されているとあるが、18歳未満の子供がいる世帯とのことで小中学校を通じての把握では間に合わない方もいると思う。どのように把握しているのかあるいは把握する予定なのか教えてほしい。

松田課長：把握は難しいのが現状である。ホームページや広報、さらに生活支援に関わる部署や子育て支援総合センターなど、市の関係部署の窓口にリーフレットの設置をお願いしようと考えている。

伊藤委員：できれば徹底して周知してほしいと考えている。例えば地方紙などの新聞や記者会見などでの広報も考えていただければと思う。というのも、支援が必要な世帯に限って就職活動などが忙しくきちんと把握できない傾向が一般にあるので、できる限りの努力をしていただきたい。

イルズ委員：地域部活動推進事業の件で、まだ検討している段階だと思うが、今回この予算で例えばどの学校のどの部活でどんなことを行っていくのかがもし決まっているなら教えてほしい。

前田課長：今現在交渉している段階でまだ確定していないのでこのような表現になっている。

伊藤委員：おそらく市内の1校が選ばれるのだと思うが、決まり次第報告をお願いしたい。またこれに関して、運営団体を確保するための予算があるが、どこに運営を委託するのか。公募を行うのか。

前田課長：運営団体についても委託団体を探している段階である。

伊藤委員：保育補助員について、今現在すでに保育補助に入っている人はいるのか。その場合、資格があれば望ましいなどの募集条件はあるのか。

川田指導主事：現時点で、公立保育園では保育資格を持った方しか働いておらず保育補助員はいない。しかし私立保育園では、資格を持っていない保育補助員の方がすでに働いているところがある。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第5 議案第21号 生駒市文化財保護審議会委員の委嘱について

・生駒市文化財保護審議会委員の委嘱について清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p12>

(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第22号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

・生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p13、資料4>

(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第7 議案第23号 生駒市学校歯科医の委嘱について

・生駒市学校歯科医の委嘱について山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p14、資料5>

(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第8 その他

・令和3年度6月行事予定について山本教育総務課長と清水生涯学習課長から報告

(質疑)なし

○閉会宣告

午前10時39分 閉会